

## 平成 15 年度 第 3 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 15 年 10 月 16 日 18:30～20:00

市民活動サポートセンター

出席委員 11 名……新井、水谷、石塚、江口、佐藤、柴崎、多田、田中、細川、松澤、横山  
事務局 4 名……YMC A よこすかコミュニティサポート 高村、田口、福士  
市民生活課 山田

### 1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

### 2 審議事項

提案どおり承認した。

のたろんフェア 2004 開催に伴い、2 月 6 日（金）17:00 から 2 月 8 日（日）19:00 までワーキングコーナーのみの利用となることを了承した。

### [意見概要]

#### 利用状況について

##### （松澤委員）

利用団体数とデータベース登録団体数のグラフと数値が合っていない所がある。

##### （事務局）

間違っているようなので、調べて次回までに訂正する。

#### 利用者の声について

##### （松澤委員）

同じような意見が多いようだが、同じ人が書いているのか。意見とそれに対する対応を目立つところに掲示して知らせてはどうか。

##### （事務局）

ほとんど別の人が書いている。利用者の声とその対応は受付横のサポートセンターからのお知らせのスペースに掲示している。

##### （江口委員）

それぞれの目的があって利用しているので、なかなか掲示を見る余裕がない。同じようなものでも意見が出てくることは良いことである。繰り返し出てくるようであれば、対応を考える必要がある。

#### 夏の市民活動スタンプラリーについて

##### （新井委員）

参加者が増えてきているようだが、どう増えてきたか、今後、資料としてまとめると参考になる。

## 市民公益活動団体について

(田中委員)

登録団体が現在会員を募集しているかどうかの情報提供をしてはどうか。

(事務局)

予約利用や掲示板利用を目的に登録する団体もあり、さまざまである。約 500 団体の登録があり、会員を募集しているかどうかまでは把握していない。

(柴崎委員)

サポートセンターのホームページから、どのような団体があるか見ることができるか。また、サポートセンターに問い合わせれば教えてもらえるか。

(事務局)

サポートセンターのホームページで団体名と活動内容がわかるようになっており、独自のホームページを持っている場合はそこからリンクしている。登録時に団体が公開としている情報は、問い合わせがあればお知らせしている。

(水谷委員)

米百俵フォーラムというのは団体名か。

(事務局)

団体名である。

## のたろんフェア2004について

(新井委員)

事業の目的が書かれているが、このように目的を確認することは大切である。

(松澤委員)

募集する団体数は決めるのか。また、昨年、参加団体から運営ボランティアを1名必ず出すようにとのことだったが、昼間の活動を中心としている団体には負担である。仕方がないとも思うが、今年はどうするか。

(事務局)

昨年パネル展&フリーマーケットに42団体が参加している。昨年の実績より多く募集したいと思っている。運営ボランティアについては、今年は、実行委員のほか有志に協力を依頼し、「できれば各団体から1名ずつ出してほしい」と呼びかける程度にしようと考えている。

(新井委員)

説明会、報告会については、きちんと出席してもらうようにする必要がある。昨年の報告会で、説明会に出席しなかった団体から、「説明が不十分だった」というような意見が出ていた。参加団体は、お客さん気分ではなく、それぞれの責任を果たす必要がある。

## 市民活動サポートセンターの開館時間について

(柴崎委員)

事務局の提案どおりで良い。そもそも開館時間の見直しは何のためか、同じ認識が無かった。無駄を無くそうということだったと思うが、今後、必要に応じて、我々から問題提起していく。

(佐藤委員)

長い目で利用者の立場に立って考え、いかに利用しやすくするかである。提案どおりで良い。

(江口委員)

多くの人に聞いたが時間短縮は困るという意見だった。仮りに 9 時閉館となれば、実際の利用は 8 時 30 分頃までに終わらせるようになるので使いづらくなる。

(石塚委員)

提案どおりで良い。開館時間も条例に規定するようになるということなので、なお慎重に検討する必要がある。

(松澤委員)

なぜ開館時間を短縮しなければならないのか理由がわからなかった。利用者からすれば、24 時間開いているのが一番便利である。再度検討する場合には、提案理由をはっきりさせる必要がある。

(事務局)

運営委員会で議題とした理由は、「市民活動サポートセンターの在り方」の中で定期的な見直しが明記されていること、利用者がいないのに開館しているのは税金の無駄だという意見があることから、今回検討した。

(細川委員)

利用者からすれば、10 時まで開いていてありがたい。自分たちの会では、日曜夜の利用は少ないので、時間を短縮しても問題はない。条例改正となると手続きが面倒なので、時間をかけて慎重に検討する必要がある。また、こちら側から PR して夜の利用を促進する方法を考えてはどうかと思う。演劇鑑賞会でポスター展をやったが、会員でも知らない人が多かった。もっと PR が必要である。

(新井委員)

演劇鑑賞会はフェアにも 2 年連続で参加しているのだから、団体としての努力も必要ではないか。

(田中委員)

日曜の夜は利用者が少ないということは現実としてある。今、使っている人たちが了解すれば、短縮しても良い。そうでなければ、PR して利用を増やすようにしてはどうか。

(多田委員)

今日の資料を見ると利用している団体もある。夜間開いているのはアピールにもなる。

(新井委員)

サポートセンターの在り方の中で見直しを図ることになっており、運営委員会の事前打ち合わせで日曜の利用が少ないという現状を踏まえての開館時間の検討だったが、事務局提案どおりとしたい。

## その他（地域市民活動サポートセンターについて）

(田中委員)

追浜のサポートセンターは、追浜の人でも知らない人がいる。看板のプレートが小さくて目立たない。情報コーナーの上に大きく看板を出したら良いのではないか。

(江口委員)

久里浜もエスカレーターでつながっておらず、意識を持って行かないとわからない。素通りする人ばかりで、PR が大事である。

(柴崎委員)

サポートセンターのホームページから地域市民活動サポートセンターにとべるようにした方が良い。

(松澤委員)

久里浜を使っているが、スペースが小さいので、あまり宣伝しすぎても、利用できない。

(事務局)

スタンプラリー、のたろんフェアなどのイベントのほか、最近では広報よこすか 9月号 2面でPRした。可能な範囲でPRに努めている。追浜の親子サロンは子育て中の人なら誰でも利用でき、それほどPRしていなくてもにぎわっている。サポートセンターの場合、単なる待ち合わせや勉強の場としての利用はお断りしている。市民活動に携わっていてサポートセンターを必要としている人の数が相対的に見ると少ないのが現状である。

(横山委員)

運営委員会でPRが必要という意見が出たのだから、私たち委員が口コミでPRしていく必要がある。条例のパンフレットに「ストップ・ザ・他人まかせ」とあるように、人任せにするとコストがかかるということである。